

北 どころ

第72号 2022年3月1日 (毎月1日発行)



①庄原の中心部を描いた地図。今と変わらぬ本通り筋です。右上の青色を施したのは西城川。点線は旧街道。中央の縦の通りは商店街。今とよく似た街筋です。「西明寺」のそばで「備中伯耆路」と「古(吉?)備中路」に別れています。『藝藩通志 巻五』より

庄原の不確かな歴史ドラマ——永江の庄から現代まで② 九日市は塩の市か ——右近伝説はどこまで本当か 音谷健郎

9日の日に市が開かれる「九日市(くんちいち)」は、いまでも旧庄原の市街地で続いています。20年前に復活して、毎月9日には、雨の日も雪の日も開かれて来たのですが、このところコロナ禍で中止のときもあります。

庄原の繁栄を担った「市」なので

すが、その起源は、思ったほどにははっきりしないようです。

まず、先駆的な概説書『永江庄から庄原町へ』(1949年刊)を開いてみました。

庄原の塩市は、いつ頃から起こったものか、正確な年代は明かでないとしていきます。それでも、『庄原雑録』

によると、次のように記載されています。

「塩市は月二、三度立ち、根元右近(屋号)の庭にて近在の者あい集まり、諸商売始め仕り、(領主)山内様より町割りおさせつけられ、町並みはじまり」と。天正の頃(1573年—1591年)には、領主山内様が棧敷を作って、市を見物したと伝えられているが、真偽の程は判明しない、としています。とすると、市が「右近」から発祥したとの伝説は、確たるものではなくります。

こうした中で九日市は、江戸時代を経て続き、先の太平洋戦争の頃、中止となったのですが、2001年に復活しました。復活にこぎ着けた九日市実行委員会の委員長寺岡隆行さん(91)は、「庄原市の音頭で庄原の隠れた文化財162件を探しました。そのうち九日市(の復活)は、最後まで残った行事でした」と言っています。

庄原の中本町を中心に復活した「九日市」は40、50店の出店があり、賑わいを見せました。店は、庄原の近郷近在だけでなく海岸地域の町や県外からの出店も多く、往時を偲ばせていました。最近ではコロナの影響もあり、出店は30店前後に減っている



②道の分岐を案内する里道標（東本町2丁目、田部家の前）。右に「東城」、左に「西城」と読めます。



③「九日市」の宣伝ポスター。市職員が2年がかりで風俗も考証して描いたものです。

と言います。

往時にさかのぼって町としての発展を眺めてみました。「市」が立って始まった集落ですが、やがて家屋を構えた商店に発展し、商業の集約地となったのです。「九日市」は9日、19日、29日とひと月に3回開かれたようです。

ただ、商業地として賑わっているも、町の「格」としては低かったようです。東城には国老（藩の重臣）を置いて町奉行、与力、同心を配置、西城は代官を駐在させ、後には三日市にも代官役所を置いたとあり、庄原はただの商業地のままだったのです。本

格的な庄原の発展は、江戸中期以降と推察されます。

『庄原市の歴史 通史編』では、明暦の大火（1656年）の後、町には9軒の酒屋があり、かなりの町屋敷が並び、町として機能をなしていたであろう、としています。

それから約70年の後の享保13年（1728年）には、庄原の町の主要通りの街区の長さは、「4町（約400坪）。表通りの家の数は88軒。全体の家の数は578軒」と、しています。

江戸後期を記録した『藝藩通志 卷五』によると、江戸後期の庄原村の人口は1749人で、近隣では高村が927人、川手村414人、新

庄村296人、宮内村231人を抑えて地域の中心になっています。

前頁の図①は、同『通志』に掲載されているものです。江戸後期の庄原村の繁盛の様子がよく分かります。点線はその当時の街道で出雲路、備中伯耆路などの名前が見られます。各街道は、商店街を通っています。こうしたことから、庄原の利点は、

地理的に交通の要所だったことだと思われま

す。庄原は、周辺に伸びながら町が発展していったようですが、曲折もうかがえます。昭和になって編纂された『宝暦恵蘇郡誌』をひもとくと、その辺の事情がうかがえます。「宝暦

とは1751年〜1764年で、江戸中期の暮らし全般の記録です。

まず、庄屋他の役人は「厳密な素性吟味」により任命され、所有田畑は、庄屋は本百姓の平均高の2倍20石位。本百姓は一生土地を相手に働き、「出世の道は絶無であった」とあります。山間地では勉強でもすれば、「大罵倒せられ、村役人でさえ幕末以外には（勉強は）不可能であった」と記しています。

一方で様々に税、賦役が課され、天候異変による飢饉が追い打ちをかけてきています。享保3年（1718年）には、現庄原市山内の山王原に農民が集結して一揆となり、首謀者が打ち首。天明6年（1786年）の飢饉でも一揆で首謀者は処刑。

山深いこの地が、ちよつとしたきつかけで発展を見ることがなるのが歴史なら、発展の行方に紆余曲折があるのも歴史のようです。

次回は、「山内首藤の勢力範囲」について調べてみます。

参考…『藝藩通志』は安芸国広島藩の地誌。文政8年（1825年）に完成。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「屍者の帝国」

伊藤計劃×円城塔 著 河出書房新社

SF作家の伊藤が冒頭の30枚の草稿を残してガンで急逝、親交の深い芥川賞作家の円城が書き継いで完成させた。フランケンシュタインの屍体蘇生術が普及した19世紀が舞台。意思のない屍体に命令をインストール、産業の基盤を支えている。兵士までも屍者が導入され、命知らずの屍者部隊が凄惨な戦いを繰り広げる……。



サイバーパンク小説の大作だが、読者を選ぶ本でもある。実在、架空含めて数多くの有名人が登場するが、読み手の知識を試されているような気がする。最後まで読み通すには忍耐も必要。日本探偵小説の三大奇書、小栗虫太郎の「黒死館殺人事件」を連想した。

「火星に住むつもりです」

村木風海 著 光文社

「二酸化炭素が地球を救う」の副題。著者の21歳の化学者は、高校2年生の時に加湿器のようなお手軽サイズの二酸化炭素吸収装置「ひやっしー」を発明、現役東大生の今は起業して、量産化を目指している。

集めた二酸化炭素からはメタンガスを生成、それを燃料にして車や飛行機を動かす。近未来にはロケットを飛ばして火星に行き、火星の空気の95%を占める二酸化炭素を原料にして移住空間を創出……。この大風呂敷、企業と提携するなどして着実に成果を上げている。世界の救世主として、国家プロジェクトの規模で取り組むべしと思うのだが、今一つ話題になっていない。何か問題があるのだろうか。



「貝原益軒の養生訓」

ジョージ秋山 著 海竜社

「難しい訓えではなく、普通の、あたりまえのことを言っているだけなのです。人は普通で、あたりまえなことがいちばん苦手で、できないのです。」漫画界の奇才、ジョージ秋山の帯の言葉である。「あとがき」によると、糖尿病で入院しているときに、養生訓の言葉を思い浮かべたという。

「心の健康が体の健康であると知れ」「病にかかっていないときに養生は行なうものである」「限りのない欲望にかぎりある生命を使うのは間違っている」「いつも完全無欠を求めていると疲れるものだ。自分が多少とも気になっていることがあればそれでいいのではないか」、心に沁み入る言葉がたくさん！



「ぐんぐん伸びよう会」(教室：川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やない)

当教室では、一人ひとりに合った学習(ちょうどの学習)をし、**年齢・学年に関係なく、生徒ができるところから始める学習法**です。**対象は、乳幼児～小学生。**

教室とご家庭との二人三脚で**子どものもっている可能性を伸ばしていきましょう。無料体験受付中！！**

0~3歳：4800円(週1回)。4歳~小6生：算数・国語(各5500円、週2回)。お気軽にご連絡くださいね。



「植物画とは何か
—日本の植物図譜を中心に—」(4)

「本草綱目啓蒙」は書名から李時珍の「本草綱目」の入門書あるいは解説書と思われがちであるが決してそうではなく、博物学書として成り立っている。

例えば、本草綱目の白頭翁（和名オキナグサ）を例にとると、白頭翁は草部山草類として「釈名（別名、その出典、名称の由来、字義）、集解（産地、形状、鑑別法）、修治（生薬の調整、加工法）、気味（寒・熱・湿・涼の四気、酸・甘・辛・苦・鹹〔かん〕の五味、有毒無毒の別）、主治（薬効）、発明（新説または李時珍自身の説・見解）、附方（簡単な処方）」と、7項にわたって記載しているのに対し、「本草綱目啓蒙」では、草部山草類に分類しているものの、次のように記載されている。

「白翁頭 ナカクサ（和名抄）、オキナグサ（和名抄）、ゼガイソウ（信州筑前）、シャグマザイコ、シャグマグサ（石州）、チカウ、チゴバナ（加州藩州）、チンコバナ（信州）、チチンコ（仙台）、チチコ（野州）、カハラチゴ（野州）、チンゴ（信州）、ケコノマヒ（越中）、オチゴバナ（水戸）、カハラバナ（仙台）、カハラザイコ（炮灸全書）、ガクイモ（濃州）、カツラ（濃州）、ガクソウ（濃州）、ツワブキ（参州）、ネコグサ（筑前）、ゲジゲジマナイタ（加州）、ダンゼウドノ（讃州）、ダンゼウ（阿州）、ゼウドノ（四国）、カプロ（木曾）、カプロソウ（信州）、ヒメバナ（大阪）、オニゴロ（越中）、テングノモトドリ（越中）、ウナイロ（花家）、ヲナイユ（肥後）、ウバガラシ（松前）、ヲバガシラ（津軽）、ヤマブシバナ（石州）、シャンゴバナ（播州龍野）、ホウコグサ（播州姫路）、コラコラ（播州木梨村）、コマノヒザ（仙台）、ケイセンクハ（備前作州）、ケイセイソウ（甲州備中）、ヌスビトバナ（肥前）、ヌスドバナ（和州）、ハグマ（泉州）、キツネコンコン（備後）、ラカンソウ、モノグルヒ（飛州）、カツチキ（飛州）、ガンボウシ（上野）、ジイガヒゲ（芸州）

〔一名野丈 事物・異名 老翁 彭薬性・須奇方 注之花 郷草・本草〕

山野向陽ノ地ニ多シ、宿根ヨリ数葉叢生ス。形唐種ノ防風葉ニ似テ光滑ナラズ。莖葉トモニ白毛多シ。三四月一尺許ノ莖ヲ出ズ。其巔ニ細小葉ヲ抱キ並ビ生ジ、上ニ数枝ヲ分ツ。枝頂ゴトニ一花、倒重シテ鈴鐸ノ如シ。長サ八九分 濶サ六分許 後開テ向テ仰グ。六弁ニシテ紫赤色。外ニ白花多シ。中ニ一撮ノ紫糸アリ。黄蕊此ヲ囲ム。花衰テ弁蕊俱ニ脱ス。中ノ紫糸漸ク長大、二寸許、円ニ簇リテ四ニ垂。其糸甚細ク淡紫色ニ変ズ。後又白色ニ変ジ、風ニ隋テ飄リ飛去。糸根ニ小子アリ、落ル処ニ苗ヲ生ズ」（平凡社刊「東洋文庫 531」による）

と、本草綱目の修治・気味・主治・附方に関する記述は全くなく、小野蘭山が集めた多くの方言名などとオキナグサの自生地環境と形態・生活史を記述しているだけで、本草学から博物学へと「本草綱目啓蒙」はみごとに転換している。

小野蘭山が京都へ本草学の塾を開いて6年目の1759（宝暦9）年に島田充房は「花彙（かい）」の初めの2巻（草之一・草之二）を出版した。ところが草之三・草之四、木之一～木之四の6巻は小野蘭山が自ら図を描き、その書物の解説を書いて、1763（宝暦13）年に完成させている。この「花彙」に草本100種、木本200種が図入りで解説されているから、「花彙」は植物学的な図説というべきもので、ここでも博物学の独立を示すものがある。

玉鼓（ワレモコウ）の図（図1）は巻之二にあり、島田充房が描いたもの、鈴子香（ジャコウソウ）（図2）は草之三、茵宇（ミヤマシキミ）（図3）

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動物学などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

は木之四にあり、これは小野蘭山が描いた図である。「花彙」には草本 100 種、木本 200 種が載せられ、彫師丹羽庄兵衛は優れた技術で原図を木版に彫り、仕上げている。



図 1 玉鼓 (八坂書房版による)



図 2 鈴子香 (ジャコウソウ、八坂書房版による)



図 3 茵芋 (ミヤマシキミ、八坂書房版による)

「つれづれ歌談」②

松岡初枝

されたこの娘、なんてったって「オレ天皇だぜ」と言われたら答えはひとつ。断ることなんてできませんよね。

・あをによし奈良の都は咲く花の薫(にほ)ふがごとく今盛りなり

小野老(おのおの)

あをによしは奈良に掛かりま

す。説明など要らないほどの有名歌です。小野老は太宰少弐、長官

の相伴旅人の部下です。老は三首しか万葉集に残していませんが、無駄ひとつ無い表現で、今も多くの人に知られる歌です。

・春の苑(その)紅(くれなゐ)にほふ桃の花下照る道に出立つ少女(おとめ)

同伴家持

家持の若い頃の初々しい歌です。

・来むといふも来ぬ時あるを来じといふを来むとは待たじ来じといふものを

同伴坂上郎女

(さかのうへのいらつめ)

来ると言っても来ない。来ない

と言うんだから待つわけないでしょ。

郎女は万葉きっての才女、家持

の父旅人の妹で、家持に歌の指南

をしました。モテモテだった郎女、

理屈っぽいけど魅力的な人です。



(おいおい、いったいどうしたとい
うんだ?)

マウンド上の土をならす俊也の動
作は、どこか苛立っているようだっ
た。バッティング練習をしていると
きに、いきなり真剣勝負を挑まれた
のだ。

「いいけど、何をかけるんだ?」

戸惑った顔をした。

「ただの勝負だったら、真剣にはな
らんだろ?」

「おれはいつだって、真剣だよ」

気真面目過ぎるのが俊也の欠点
だ。

「よし、こうしよう。おれが勝ったら、
今後は絶対服従な。おれのサインに
首を振るのは許さん!」

ここぞというときには、ストレート
の真つ向勝負を挑みたがる。県大
会クラスでは抑えられても、甲子園
に出場してくる強豪校には通用しな
いだろう。四月の選抜大会が、三週
間後に迫っていた。

「わかった……」

硬い表情で頷いた。

「翔子、聞いたよな」

ボールの入った籠を運んで来たマ
ネージャーの翔子に声をかけた。

「で、お前は どうしてほしいんだ?」

驚いた顔の俊也の顔が、みるみる

赤く上気した。

「何もいらん!」

怒鳴るように言って、マウンドに
向かった。

第一球は、インコースに鋭く切れ
込んでくるスライダーだった。思わ
ず腰を引いたが、ストライクだ。

(こいつ、本気だな)

第二球は、インハイのストレート
でボール。第三球は、外角低めいっ

グ、ライト側のフェンスを楽々と越
えて、田んぼの中に落下した。
「いいフォークだ。おれ以外は誰も打
てない」

皮肉ではなかった。俊也の球種が
わかるのだ。小学生の頃からバッテ
リーを組んでいる。癖があるという
ほどではないが、始動のときの投球
フォーム、いや、その雰囲気、何
を投げることがわかってしまう。

「山中総一郎君だね」

早朝のグラウンドで、一人で素振
りをしているときに声をかけられ
た。野球部のOBだという。今でも
草野球の現役選手で、「エースで監
督」と誇らしそうに背中の「1」を
見せた。

一打席だけ勝負してくれないかと
いう頼みを断れなかった。

(わざと空振りするのも失礼だよな
……)

キャッチボールでもするように、
縫い目が見えるようなスローボール
がやってきた。

「アッ!」

思わず声が出た。本当に縫い目が見えたボールが、左右にゆらゆらと揺れながら、ベースの手前でストンと落ちたのである。

(ナックル!)

ボールに指を立てて、ボールが回
転しないように投球する。その球筋
は、風向きや天候、湿度などにも影
響され、投げた本人にも予測不能の
魔球である。何かの記事で読んだこ
とはあるが、実際に見たのは初めて
だ。

「次!」

今度は左足を上げて大きく振りか
ぶった。昨日の俊也の投球フォーム

あうん6

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑥⑥

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

ぱいのストレート、バットをうまく
合わせてレフト線のライナー、しか
し大きくスライスしてファウルにな
った。俊也の外角ストレートは、
ナチュラルでシュートする。

(くる!)

俊也の目を見て確信した。力強い
フォームからど真ん中のストレート、
いや、途中でカクンと落下する。そ
れを掬い上げるように豪快にサイン

「オッケー、おまえがボスだ、キャプ
テン」

憑き物が落ちたようなさっぱりし
た顔で、俊也が帽子を取って一礼し
た。

長身痩躯の老人が、マウンド上の
土を丁寧にならしている。ユニフォー
ムの胸には「ミラクルボーイズ」の
ロゴ。



と重なった。外角低めのストレート、自然と体が反応した。ジャストミート、しかし当たりが良すぎて、大きく右にフックした。

(この爺さん、何者だ?)

マウンド上の人物を睨むと、ニコニコと笑っている。

「名前を聞いてもいいですか?」

「外木場義郎!」

カチンときた。広島カープのエースの名前だ。

「次で決めるよ!」

力感のないフォームからのスロー

ボール。
(くる!)

縫い目が見えるボールの真ん中に、黒い汚れがある。ゆらゆらと揺れるボールが落ちてきたところをぎりぎりまで引き付け、その黒点を打ち抜いた。強烈なライナーが、センターのフェンスを直撃する。ボールは跳ね返ってこないで、フェンスの金網に突き刺さったままだ。

老投手がマウンドから降りて来て、歩み寄る。帽子を取って一礼した。

「失礼した。冥土へのいい土産ができましたよ」

差し出された手を握った。力強い握手だった。

「すごいボールでした」

(ボールが汚れていなければ、打てなかった……)

「それを打った君は、もっとすごい」

肩をポンとたたかれた。

「身体には気をつけろよ。酒はほどほどにな」

(ん? この爺さん、ボケてるのか) 「本当の名前は?」

背中に尋ねた。
「大瀬良大地!」
聞いたこともない名前だった。

腹這いに伏せた狍犬の背中に跨った。鬣(たてがみ)をしっかり掴んで顔を埋めると、強烈な獣臭が鼻孔に押し入ってくる。

(まったく、年寄りの冷や水もいとこだ)

怒鳴るような声が、身体の中から響いてくる。

(あの二球目は何だったんだ?) 「エースの意地だ」

ガハハという笑い声が身体を揺らした。耳を塞いだが効果はない。

(勝ったら、どうしたんだ?) 「翔子にプロポーズしようと思って

いた」 (余命三カ月で?) 「遺産がのこせる」

身構えたが、笑い声はなかった。

夫である山中総一郎は、プロ野球選手やコーチとして活躍したが、五年前に肝硬変で他界している。

「今度はあの世で勝負するさ」

笑い声が爆発した。
(飛ぶよ!)

黄泉平坂神社の神様は、余命いくばくもない者の最後の願いをかなえてくれるという。阿形の狍犬は、年齢を若返らせる能力を持っている。

片形の狍犬は、時間を遡る能力を持っている。

持っている。

FEBC 1566

Listen to His voice

☎180-8790

武蔵野局 郵便私書箱36号

キリスト教放送局

日本FEBC行

あなたによりそ

キリスト教放送局 日本FEBC

●AMラジオ1566kHz

毎日夜9時30分~10時45分

●インターネット放送

www.febcjp.com

スマホで聞ける!

FEBCは旧新約聖書を神の言葉と信じ、使徒信条を告白する超教派のキリスト教放送局。選りすぐりの20以上の番組を毎日放送。無料聖書通信講座やメールによる相談も。

《PR 広告》

庄原FEBCの会

「種をまく」

元庄原格致高校写真部顧問

田村繁美



私は、広島県立三和（みわ）高等学校で11年間、次の広島県立庄原格致高等学校で19年間と30年間も高校写真部の顧問をした。三和高校赴任の4月、「写真を教えることが出来る人がいなくなった。先生は若いし、テニス部と兼任で頼みます」と言われた。その時、ちょっと困ったふりをしたのを今でも覚えている。

私は、実は、初任の広島県立廿日市高校砂谷（さこたに）分校（現・湯来南高校）で、撮影も暗室でのフィルム・印画紙現像も習った経験があったのだ。当時の分校長さん、濱田秀之さんからである。東広島市八本松のご出身で、「たとえ、チューリップ一つ撮ったとしても、そこに一つのドラマがなければだめだね」ということをおっしゃっていたのが、私の頭に残っている。

先生と毎年交す年賀状の中に、「も

う充分に、生きた」といった雰囲気を感じられたので、一昨年ご自宅を訪問した。晩年の先生は、陶芸に打ち込まれていて、陶芸教室を主宰されていたほどだった。

お話しするうちに、先生の作品のひとつが居間へ置かれていたのが目についた。枯れた感じの美しいつぼに惹かれて、何度も目を向けていた。察せられたのか、先生が、「よかったらもって帰りなさい」と言われた。形見として、素直に欲しくなったので、臆することなく私は持ち帰った。一年後に先生の訃報の知らせが届いた。

1989年、三次工業高校から転勤した三和高校での4月、私は写真部の顧問に就任した。入部してきた1年生6人と撮影に出かけた。世羅西町の文化財のパンフレットを見て、大きな老つばきが近くにあることを

知った。カメラは、当時「京セラ」が創業何十周年記念かで全国の高校に1台ずつ贈ってくれたものだった。

老つばきに対峙して、シルエットにしたらおもしろいと直感して、生徒に「レンズをこっちのワイド側に回して、ここを思い切ってマイナスにして撮るとシルエットになるはずだよ」となった。この場で生まれた作品が、的場伸樹君（アメリカのナヴァホの小学校で10か月間勤務し、NHK『青春探検』の取材を受けたことのある行動派の卒業生）の『野佛（のぼとけ）』である。この作品は、広島県高校写真展2席で全国大会の県代表になる。この一枚の作品から、三和高校写真部の旺盛な活動が始まった。

その撮影の何日か後、ただ一人の2年生写真部員佐藤エリさんの保護者の佐藤弘幸さんと出会った。佐藤さんは、お仕事の大工さんの腕はもろろんのこと、「野鳥の会」の活動、カラオケ、そして写真と、何でも一流の才人だった。その当時は、写真からは遠ざかってはおられたのだが、写真の見識と腕前は相当なものと感じた。以後、私は、撮影や暗室作業の教えを乞うたり、生徒の写真の批評をしてもらったりした。

写真コンテストの実績が出る中で、三和町・世羅西町の地域の応援もいただいで、旺盛な活動が展開出来ていった。校区の三和町・世羅西町が、夜中も写真プリントができるようにと、校舎外に電気と水道を引いたカラオケボックスを置いてくれたりもした。三和高校では、計64人に写真を教えた。写真関係の仕事に就いたものが何人も出た。三和高校写真部作品集『一瞬のときめき』も出版した。

そうした中で、三和高校で熱心な部員だった西美有紀さん（現・佐々木美有紀、保育士、全国大会出、県美展入選、写真甲子園大会出場）が広島文教女子短大（現・広島文教大学）に進学した。そこで或る事務長さんと出会う。「その事務長さんが写真に詳しくいろいろな話をしている。三和高校写真部のこと、田村先生のことも知っておられた」というではないか。その人の名は、大迫誠一さんである。庄原市一木（ひとつぎ）の出身、もと三次高校事務長であった方だ。

私は、11年間の三和高校の教員生活にピリオドを打って、庄原格致高校に赴任した。ここでも、不思議な出会いが待っていた。その数日前に、NHKテレビのニュースで、私のこ



三和高校写真部作品集、表紙は『野佛（のぼとけ）』的場伸樹



庄原格致高校写真部作品集、表紙は『空へ』濱田亜珠沙（現ドイツ在住）

「写真部カレンダー」は、三和高校から私が格致高校退職まで25冊、写真集は、『Finder』と『ふるさと見つめて』の2冊を出版、写真甲子園大会、全国総合文化祭出場、『ニコントップアイ』全国優勝、備北丘陵公園ウインタイルミネーション写真展、高野町雪合戦大会の撮影などなど、全国でも例がないほどの豊かで多彩な活動が来た。

部員数105人、三和高校からだと計170人、カメラマンを含めて10人近くが映像畑に就職した。私の本職の社会学の授業が、教え子たちにどう評価され影響を与えたかは不確かだ。だが、写真部活動においては様々な形で、私の指導が、部員たちの進路や趣味、あるいは人間観のようなものに影を落としているだろうと。

とが、「名物先生、転勤」という内容で報道されていた。

4月2日、初めての格致高校に図書室で会った女子生徒が、そのニュースを見ていたのか、「先生、うちらにも写真教えてえーや」と言う。なんと、彼女はカバンからカメラを取り出すではないか。いつも持ち歩いているそう。田辺詠美（えみ）さんである。また後日に、庄原市内の写真屋さんの「はなや」の金山一宏さん、市議員で写真家の門脇俊照さんたちが飲み会に招いてくださっ

た。「写真を教えてやってくれ、わしらが支えてやるから」とおっしゃる。格致高校は、ラグビー部の顧問をやれということだったのだが、また、庄原の地でも、私は写真部の顧問をすることになった。庄原には、写真が好きの人がことのほか多かった。東京でプロカメラマンの宮角孝雄さん（写真集『GROUND ZERO』、吉森信哉さん（写真雑誌『COPA』専属カメラマン）もおられる。格致高校には、かつて写真部があった、部員だったという人が多い。格

致OBの胡子哲也さん、小池周司さん（小池書店経営、写真集『県北の山野草春・夏・秋編』の3冊を出版）、後に入学してきた平田詩織さんの父、落付博彰さんなどなど。これらの人たちは、実は皆、前述の大迫誠一さんの教えを乞うか、大迫さんを慕い尊敬をしていた人たちであった。

格致高校写真部の活動は、これら大迫さんの薫陶を受けた多くの人たち

の大きな援助を受けて積極的な活動を展開した。大迫誠一さんが亡くなられて後に、遺品の引き伸ばし機などの暗室用品を使ってくれと、門脇さんが学校に持って来てくださったこともある。

「写真部カレンダー」は、三和高校から私が格致高校退職まで25冊、写真集は、『Finder』と『ふるさと見つめて』の2冊を出版、写真甲子園大会、全国総合文化祭出場、『ニコントップアイ』全国優勝、備北丘陵公園ウインタイルミネーション写真展、高野町雪合戦大会の撮影などなど、全国でも例がないほどの豊かで多彩な活動が来た。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

七月七日七夕（しちせき、星祭り、七夕祭り）「たなばた」、旧暦の七月七日の夕に行う行事である。七夕の行事はいくつかの流れがあり、それらが習合してできあがったと考えられる。

一つは、織姫（織女星、しよくじよせい）と彦星（牽牛星）の星祭りの



「儀式風俗図絵 七夕：乞巧奠」
(金沢大学付属図書館所蔵)

伝説と乞巧奠（きつこうでん）の行事である。どちらも中国から伝来したものである。このことについては、中国南北朝時代の『荊楚歳時記』にある。星祭りの方は、織姫と彦星の夫婦星が、あまりに仲が良すぎたため、天帝に嫉妬され天の川を挟んで引き離されてしまい、一年に一度だけ七月七日の夜、白鳥座に

羽を広げる鶴（かささぎ）の手引きで逢うという伝説があり、この日、星を祭る行事となった。乞巧奠の風習は、女性が裁縫や習字、詩歌などの習い事の上達を願ひ、この日の夜、供え物をして行う行事である。

この中国伝来の星祭り伝説とこれから発展した乞巧奠の行事は、奈良時代に伝わり、古来からの「村の災厄を除いてもらうため、棚機津女（たなばたつめ）が機屋（はたや）にこもって、

天から降りてくる神の一夜妻になる」という『棚機津女の伝説』と合わさって、現在の七夕（七夕祭り）が生まれたと考えられる。

もう一つの流れは、日本古来の豊作を祖霊に祈る祭り「お盆」の関連行事の一つであった。有名なのが、七月七日の夕方に設ける精霊棚だ。精霊棚とは、先祖の霊を迎えるために設ける棚のこと。提灯に見立てた鬼灯（ほおずき）、襖（みそ）ぎを思わせるという説のあるみそはぎなど色々なものをお供えする。しかし、現在の七夕では、お盆の用意をすることは無くなってしまった。

七夕は、お盆の前に穢れを祓い清める行事であった。だからこの日には、髪を洗ったり、子供や牛・馬に水浴びをさせたり、墓掃除をしたり、井戸をさらったりする風習が各地に残っている。

また、この日には、茄子（なす）や胡瓜（きゅうり）などを仏前に供え、馬や牛を真菰（まこも、イネ科の多年草）で作り、門口に立て、先祖の霊を馬や牛に乗せて迎えるという意味であったらしい。

青森の「ねぶた祭り」も、本来は穢れを水に流す禊ぎの行事であった。ねぶた（ねぶた）は「眠たさ」のことで、

睡魔を追い払う行事である。町を練り歩いた人形や灯籠は、川や海へ流した。七夕における水に関する習俗は、日本固有のものである。こうしてみると、盆と七夕の関係はひとつ続きの行事として理解できる。

七夕の行事はかなり古い時期からあったようで、最初の頃は宮廷や貴族など、上流階級の間だけで行われていたのが、やがて庶民の間にも広まっていき、江戸時代になって笹竹を立て、五色の短冊に詩歌を書いたりして、手習い事の上達を願う行事として広まっていった。

七夕の風習・言われを付記しておく。かつて七夕といえば、素麺が付き物だった。今日でもお中元や暑中見舞いの贈答品として素麺がよく用いられるのは、この風習の名残と思われる。

俗信・迷信として、筆で短冊に書くとき、芋の葉に宿った露で墨をすると字が上手になる。少女は、タライに水を張って星を映し、その明かりで糸がうまく通れば裁縫が上手になる。鬼灯の根を煎じて飲んだり、粉末にして女性の局部につけると、うまく脱胎ができる。

海外旅行ツアーコンダクター・エピソード④

ペルー編3・「ナスカの地上絵は宇宙人が描いた？」 山崎 允まこと

いよいよその日のハイライト「ナスカの地上絵」である。首都リマから15人で軽飛行機を貸し切り約1時間の飛行でナスカに着いた。すぐに7人乗りセスナ機に乗り換え、「地上絵」を空から鑑賞する。砂漠に約20センチ溝を掘ると、白い石灰岩が現れ、その白で猿、蜘蛛、ペンギン、クジラ、ハチドリなどの「絵」が描かれている。

セスナ機は他の機と接触しないように、定められたコースを順番に飛び、パイロットがエンジン音より大きな声の日本語で「ペンギン」「クジラ！」と我々を振り向きながら案内してくれる。客はカメラのシャッターを切るのと自分の目で確かめることで大忙し！ 前日、「地上絵が天候不順等で見る事が出来なかったら損害賠償で訴えますからね」と、お客様の一人が私にプレッシャーをかけていたので、無事にフライトが終わった時はホッとした。

昼食は全員満足顔。数回の宙返り

飛行で「飛行機酔い」でも起こそうものなら、折角食べた物を戻してしまふ……、食前飛行の理由がわかった。そして、多くの人が同じ質問をした。「誰がこのような作品を創造したのか?」。ガイドは得意顔で「多分、



コンドルの地上絵
(ウィキペディアより転載)

宇宙人でしょう」と答えた。その説を裏付けるかのような「宇宙人」の地上絵もあるのである。この国を代表する鳥はコンドル、そのコンドルの地上絵は圧巻で幾何学的だとも言える。長さを計ると135メートルの大きさ。実際、セスナ機に乗ってみて感じるのは、「誰が、どのような方法でこんなにくささんの絵を描いたのであろうか」に尽きる。

ペルー編3の原稿を執筆中の2月5日「ヤフー・ニュース」に衝撃的な知らせが載った。「ナスカで遊覧機墜落、7人死亡 日本人含まれず……」の見出し。私は仕事に「もし墜落でもしたら、旅行傷害保険が家族に渡せるから安心!」と自分自身に言い聞かせていた。機が乱気流や積乱雲で揺れても「ブランコに乗ってるんだからしょうがない」と自分に言い聞かせていた。

私の現役時代、妻は私を海外に送り出したあとで、世界のどこかで航空機等の事故が起きるたびに心配していたという。そして、成田からの「無事帰国」の電話が何よりの土産であったと言っていた。あらためて、感謝!である。

もう一つ、リマでは忘れられない

光景がある。バイキングスタイルの昼食で、窓際のお客様の食べ残しを、窓ガラス越しに女の子が食い入るよう見つめていたのだ。学校は給食がないため、授業が午前、午後に分けられている。午前の部の子が、帰宅中に「食べることでできないごちそう」にみとれていたのだろう。

でも、私は何もしてあげられない。お客様には「何回お皿に盛ってもよろしいですから、食べ残しはしないでください」とお願いしていたのに……。

ペルーでは、日本からの移民を受け入れる前、中国人の労働者を奴隷のごとく扱い、暴動が起きていた。日本からの移民に対しても、雇い主は「奴隷」として扱った。日本政府に訴えても効果なく「我々は日本から見放された、棄民“である”との風評が広まったそうだ。

一年中雨が降らない現地(西海岸)では「天井のない小屋に寝かされ、風土病等で亡くなった人たちの遺体が5、6体となるまで一緒に寝起きさせられた……」、リマ空港に向かうバスの中で、日本人移民の話がガイドから聞いて、窓ガラス越しの少女の顔を思い出し、複雑な気持ちになった。

どらくる俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

見送りに出て春月を戴けり

近藤 昌平

陶窯の炎の音色や春近し

富久光

大寒やウオーキングに気を入れる

片岡 正人

靴跡も消してしまいうや名残雪

隆愚

廃線の噂のレール冬ざるる

大槇 三代子

黎明や氷点下の里始動する

赤川 冬人

白菜漬けを巻きて食む飯ほのぼのと

松岡 初枝

幼き日々の思ひ出の味

投稿&寄稿

候のことば

「暁と曙」

隆愚

夜が明けようとしているが、まだ
暗い時分のことを春暁（しゅんぎょう）
といえます。万葉の時代には、
あかときといいました。平安時代以

降、あかつきが変わったといえます。
曙は暁より時間的に遅れ、夜がほ
のぼのと明けようとする頃のこと
です。
春はあけぼの。
やうやう白くなりゆく、山ぎは少し
あかりて、
紫だちたる雲の細くたなびきたる。
〈清少納言「枕草子」第一段より〉

「在庫整理」 赤川仁洋

毎年二月は在庫整理にあてている。今年で三年目。古本屋を開業して、思い知ったことがある。古本を商品として棚に並べるには、手間と時間がかかる。例えれば、手付かずで放置していた世界文学全集、全巻で六十冊近くある。

函（はこ）入りで、さらにその函全体に本の解説等を記したカバーがかけてある。中の本の表紙はハトロン紙で覆われている。ハトロン紙が

ずれたり剥がれたりしないように、表紙の裏にしっかりと糊付けされている。本の見返しにはすべて蔵書印、持ち主の本への思い入れが伝わってくる。

しかし、長年、棚に放置されていたのか、函のカバーやハトロン紙は傷んで、内側に埃やカビが入り込んでいる。残念だが、カバーやハトロン紙を全部、取り去って、濡れた雑巾でゴシゴシと汚れを拭いた。稀覯本の価値はないので、実用品（読む本）として販売するのであれば、手が汚れないように、最低限のクリーニングをする必要がある。

ネットで高値が期待できる本は、丁寧に「お色直し」をするので、さらに時間がかかる。並べる棚の確保も四苦八苦、スペースを無理やり作るのも、材料を買って自作するしかない。かくして、時間は急ぎ足で流れてゆく……。

愚痴や言い訳を書いてしまいました（苦笑）。今回も、店舗部分の在庫が整理できただけで、大量の古本を押し込んでいる母屋の一室は手付かずのまま。パンクしないためには、引き取りを制限するしかない？ 古本屋の理想がどんどん萎びている……。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

— 硬式テニス参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・ 火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・ 水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・ 土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どらくろあの一隅でしています。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

どらくろあ 無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●

(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの効果が期待できます。

(80g入り 500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどらくろあ・赤川まで。

掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載している
ので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

まちの古本屋さん どらくろあ

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。

無料の漫画ルームもあります。

・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

●庄原市中本町 2-1-10

●定休日：毎週月・火曜日(2月は店内整理で全休)

●TEL: 090(9913)3052

●営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

発行：どらくろあ

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇コロナ禍の「まん延防止等重点処置」と大雪、今回の芸備線ストロールはお休みです。
◇田村繁美さんの「種をまく」、華々しい活躍をする格致高校写真部の顧問だった方で、以前より原稿依頼していました。人との出会いの大切がよくわかります。
◇先月号の芸備線ストロール、太陽の塔の制作者は「岡田太郎」ではなく「岡本太郎」、つれづれ歌談、山部赤人の歌の最初は「むばたま」ではなく「ぬばたま」。初期配布の冊子は訂正していません。申し訳ありませんでした。
◇コロナ禍にウクライナ紛争、歴史の時計の針が戻ったような気がします。平穏な日々を祈る毎日です。

第 246 回

しょうばらくんちいち 「庄原九日市」

令和 4 年 3 月 9 日 (水) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

3月8日(火)~10日(木) 10時~15時

令和3年度庄原市文芸大会入賞作品展

★どら書房→休憩所あります!!

月曜日と火曜日はお休み

但し、九日市の日は営業します。

★楽笑座「まかない食堂」中 止

「うた声喫茶」再 開 13:30~15:00

★きくや→総菜とお寿司の店頭サービス!!

★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!

★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き

九日市特製ピタサンド600円

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

出店配置図



出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

